

2013 年 1 月 30 日

2012 年度 聖路加看護大学大学院

課 題 研 究

助産所の健診場面における妊婦と助産師との相互作用

—Woman-Centered care の視点から—

The Antenatal care Interaction between Pregnant Woman and Midwife at Birth Center.

-The Point of View from Woman-Centered care-

木村 摩耶

## 要旨

### 研究目的

助産所で行われている妊婦健診で助産師と妊婦との関わりの場면을観察・記述し、そこで行われている相互作用を WCC の観点から考察する。

### 研究方法

本研究は、妊婦と助産師との健診場面を参加観察し記述する、質的記述研究である。

1 カ所の助産所で、妊婦健診 16 ケースを研究対象とし、そこでの妊婦と助産師のやり取りや関係性を参加観察でデータ収集し、妊婦には健診終了後に質問紙を実施した。事前研修では、観察のデータと録音データを逐語化し、健診を担当した助産師と担当教員にスーパーバイズしてもらった。本研究では逐語化したデータを助産師のみに確認してもらい、信頼性を確保した。加えて、質問紙は統計ソフト SPSS で分析した。

### 結果

参加観察は 16 ケース行い、595 場面が抽出された。質問紙は 16 部配布し、回収率は 100% であった。

助産所の妊婦健診における妊婦と助産師の相互作用には、《妊婦は、心地よい環境の中で助産師を身近に感じ、受け止められていく》と《妊婦が、助産師から受け止められずにいる》というテーマが抽出された。《妊婦は、心地よい環境の中で助産師を身近に感じ、受け止められていく》には、カテゴリ＜心地よい環境＞＜親しみ＞＜承認を得る＞＜思いを伝える＞＜核心を突かれる＞＜決意する＞に分類できた。＜心地よい環境＞のカテゴリは、サブカテゴリ『やさしい雰囲気』『リラックスした空気感』『心地よいテンポのやり取り』『しみじみと一緒に児を見る』から成立していた。＜親しみ＞のカテゴリは、サブカテゴリ『助産師を身近に感じる』『上の子の居場所をつくってくれる』『一緒に楽しむ』から成立していた。＜承認を得る＞のカテゴリは、サブカテゴリ『覚悟を支えてもらう』と『認めてもらう』から成立していた。＜思いを伝える＞のカテゴリは、サブカテゴリ『こころを開く』『打ち明ける』『希望をはっきり伝える』から成立していた。＜核心を突かれる＞のカテゴリは、サブカテゴリ『言い当てられる』が見出された。＜決意する＞のカテゴリは、サブカテゴリ『吹っ切る』『気持ちが決まる』から成立していた。

《妊婦が、助産師から受け止められずにいる》には、カテゴリ＜欲しい回答が得られない＞＜距離が縮まらない＞から成立していた。＜欲しい回答が得られない＞のカテゴリは、サブカテゴリ『長引くやり取り』が見出された。＜距離が縮まらない＞のカテゴリは、サ

ブカテゴリ『平行線のやりとり』『気持ちが置き去りになる』から成立していた。

簡易版 WCC-妊娠期尺度:日本語版の合計得点の平均は 110.56 点 (SD=5.93) であった。最高得点は 115 点が 6 人(37.50%)、最低得点は 94 点が 1 人(6.25%)であった。各項目の平均点は 5.00 から 4.50 点であり、「5 点:大変そう思う」から「4 点:少しそう思う」に集中していた。《妊婦が、助産師から受け止められずにいる》場面が観察された妊婦は、合計点が平均点より 1SD 以上離れて得点が低かった。

## 結論

妊婦からみた助産師との相互作用の特徴にはテーマ《妊婦は、心地よい環境の中で助産師を身近に感じ、受け止められていく》と《妊婦が、助産師から受け止められずにいる》が含まれていた。そして、質問紙より、妊婦は助産師とのやり取りの中に WCC を高く認識していた。